2023年度事業報告

**１．概況**

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の５類移行（５月）などの社会環境の変化の中、当協会は大会参加者の地域制限の完全撤廃（４月）・マスク着用要件の緩和（６月）など、種々の規制を段階的に解除してまいりました。その結果、４月以降の大会はほぼコロナ禍前と同じ規模で開催されるようになり、主催大会16大会、公認大会43大会、初段認定大会34大会が開催されました（別紙1、2、3）。

**２．重点実施事項の進捗**

以上の状況の下、当協会は中長期ビジョンに定めた「大半の市民が競技かるたに親しみを感じ、常時競技かるたを楽しんでいる愛好者は現状の2倍に拡大している」状態を10年後には実現させることを目標に、以下の4項目を重点に事業遂行をはかってまいりました。その進捗は以下のとおりです。

**１）安全・健康の確保**

「練習会・大会開催ガイドライン」を4月（第五版）、6月（第六版）、11月（第七版）と改正し、会員から要望の多いマスク着用についても大幅に規制内容を緩和しました。また海外からの参加選手に課せられていた入国時のPCR検査義務についても4月から解除し運用してまいりました。2024年度4月改正のガイドライン第八版では基本的感染対策のみ存続させ、競技運営に関する規定は「競技会規程」その他の文書類に統合・再編しました。

**２）社会に向けた広報活動の発信強化**

**(1)競技かるたの発信**

昨年度に続き、主催大会を契機とした集中的な広報・渉外活動を「全国高等学校選手権大会」（7月）、名人位・クイーン位決定戦（1月）、ちはやふる小倉山杯(2月)にて実施しました。各大会毎に1～2回のプレスリリース発信、ホームページ上に大会専用ページの開設、メディアへの取材誘致、企業等への協賛募集などを実施しました。その結果、メディアでの報道・掲載実績は、全国高等学校選手権大会が20件、名人位・クイーン位決定戦が69件（前年53件）となる他、各大会のプレスリリース発信時にも多くのメディア掲載を得ることができました。また協賛金額は前年の1.5倍と大幅に増加しました。

他方、上期期間中に開催したタイトル戦「全日本選手権大会」「全国女流選手権大会」では同様の広報活動は着手できておらず、今後の課題となりました。

**(2)地元行政との連携**

４月に開催しました「全日本選手権大会」においては、開催地である愛知県豊田市が大会協賛イベント「とよたかるフェス2023」を初めて開催し、市民向けに大会・競技かるたを大々的に発信し、本大会及び競技かるたの盛り上げ・認知拡大に大きな効果を得ることができました。従前から地元行政（県・市）とコラボできている6月の「全国女流選手権大会」に続く地元行政との連携のあり方として、今後も継続・発展させていきたい取り組みと考えています。

**３）普及活動の拡充**

**(1)新様式・新ルールにより世代別大会・イベントの企画**

昨年度試行した「テーブルかるた」について、専用の競技線入りマットの製作、専用ルールの制定等を経て、6月に正式大会として「第1回テーブルかるた大会」を開催しました。小学生から高齢者までの幅広い層から30人の参加を得、当初想定していた高齢者だけでなく幅広い層に競技かるたを楽しんでもらえるツールであることを確認できました。

今後は「テーブルかるた」の更なる充実化をはかるとともに、他の取り組みとして中高年層向けをターゲットとする大会・イベントなどの企画検討を進めてまいります。

**(2)初心者普及活動**

昨年1月に情報収集した全国の初心者普及活動実態の分類・整理を進め当協会ホームページへの掲載等関係者が情報共有できるしくみ検討を進めました。また、課題となっている初心者教室のあり方、講師派遣方法、指導者制度設計などについて（一社）ちはやふる基金と意見交換会を行い、外部のニーズ等を把握する取り組みにも着手しました。

**４）新たな大会運営へのスムーズな移行**

**(1)全国大会制度の見直し**

4月に支部長を通じて全国の各かるた会に全国大会制度見直し案を提起し、意見集約をはかりました。全支部からの意見聴取および関係専門部（審査部、普及指導部、総務部）との意見交換を経て11月の支部長会議・理事会で新制度を決定しました。新制度による改正内容は従来「通達」、「練習会・大会開催ガイドライン」に規定されていた内容をも織込み「競技会規程」改正版として3月に発行し、2024年4月から新しい制度での大会運営を開始しました。

なお、新しい制度については実行する中で顕在化する課題・問題点があれば柔軟に改善するよう努めてまいります。

**(2)全国高等学校選手権大会の継続的な見直し**

7月に開催した「全国高等学校選手権大会（個人戦）」は、昨年の決定に基づき、出場資格をD級以上として実施しました。この結果、参加人数は想定内の1,561人（エントリー段階）となり計画通り会場数を15箇所から10箇所へ、大会スタッフ数を509人から399人へ削減でき、大会収支についても大きく改善し、本大会を健全に開催継続する道筋が見えるようになってまいりました。

2025年度に向けては上述の全国大会制度見直しを受けた大会出場資格の再見直しと使用会場の厳選、協賛募集活動の更なる拡大等種々方策を企画・実行し更なる大会の健全化をはかってまいります。

**3.事業の成果**

**１)会員数** （人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 2023年度 | 2022年度 | 差　異 |
| 1.正会員 | 2,736 | 2,694 | 42 |
| 2.准会員 | 1,896 | 1,780 | 116 |
| 小計（1+2） | 4,632 | 4,474 | 158 |
| 3.賛助会員(個人) | 183 | 198 | △ 15 |
| 4.法人賛助会員\* | 15 | 16 | △ 　　1 |

\*法人賛助会員名（順不同、敬称略）

　 ㈱奥野かるた店　 ㈱大石天狗堂　 近江神宮　　(公財)小倉百人一首文化財団

㈱マウビック　 ㈱ヤマネ　　 マルイト わたや 　　㈱万葉

シップス㈱ 　　 宗教法人 妙久寺　　 ㈱講談社　 ㈱カルチャーランド

　 Beta Computing㈱　 　共栄火災海上保険㈱ 文化ネット合同会社

注） (株)月の舟　法人賛助会員⇒個人会員へ変更

**２)昇段者数**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段位 | 2023年度 | 2022年度 | 差　異 |
| 初段 | 2,144 | 2,192 | * 48 |
| 二段 | 1,086 | 1,028 | 58 |
| 三段 | 500 | 562 | * 62 |
| 四段 | 138 | 121 | 17 |
| 五段 | 51 | 26 | 25 |
| 六段 | 15 | 10 | 5 |
| 七段 | 2 | 0 | 2 |
| 八段 | 1 | 2 | * 1 |
| 九段 | 0 | 0 | 0 |
| 十段 | 1 | 0 | 1 |
| 合　計 | 3,938 | 3,941 | * 3 |

**4．実施事業**

**1)大会開催事業**

(1)主催大会

　　合計16大会を開催。詳細は別紙１の通り。

(2)公認大会（(3)を除く）

　 各会が主催する43大会(一部級未開催大会を含む)が開催された。詳細は別紙２の通り。

(3)初段認定大会

　　 各会が主催する34大会が開催された。詳細は別紙３の通り

**2)各種講習会開催事業**

講習会開催実績　　　　　 　　　　　（回、人）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 支部 | 審判講習会 | | 読手講習会 | |
| 北海道・東北 | - 回 | - 人 | 1 回 | 27 人 |
| 関　東 | 2 | 40 | 7 | 227 |
| 甲信越 | - | - | 1 | 6 |
| 北　陸 | 3 | 23 | 10 | 43 |
| 東　海 | 4 | 55 | 4 | 51 |
| 近　畿 | 1 | 27 | 3 | 81 |
| 中　国 | 1 | 10 | 2 | 18 |
| 四　国 | - | - | 1 | 10 |
| 九　州 | 3 | 69 | 7 | 82 |
| 合　計 | 14 | 224 | 35 | 545 |

**3)表彰認定事業**以下、2023年6月に表彰

(1)功労賞

　　柘植　健（宮崎かるた会）小山靖司（鹿児島かるた会）唐牛正一（鹿児島かるた会）

(2)特別功労賞

　　川原博子（都立白鴎高等学校） 友松尋子（千葉県立実籾高等学校）

池本邦彦（広島市立基町高等学校） 長島和子（神奈川県立西湘高等学校）

笹原明美（笹原明美）

**4)機関誌「かるた展望」発行事業**

第77号　2023年8月 発行

　第78号　2024年2月 発行

**5)文化講演会の開催事業**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 第1回 | 第2回 |
| (1)日 時 | 2023年6月11日（日） | 2024年1月5日（金） |
| (2)場 所 | 林野会館 6階 603号室  （東京都文京区） | 琵琶湖ホテル 5階「琵琶湖」  （滋賀県大津市） |
| (3)講 師 | ㈱大石天狗堂  代表取締役社長 前田直樹 氏 | 宮崎大学　准教授  　永吉　寛行　氏 |
| (4)演 題 | 「かるたの歴史と大石天狗堂の歩み」  （かるた札の制作体験を含む。） | 「国語教育における百人一首の現状と展望」 |
| (5)聴講者 | 34人 | 52人 |

**5．専門部の活動実績**

専門部毎の活動実績は以下のとおりです。（太字は「2」にあげた重点実施事項に関わる事項）

|  |  |
| --- | --- |
| 部 門 | 活 動 実 績 |
| 広報部 | 1)HP（特設ページの設定、コラムの投稿）およびXを活用した、タイムリーな情報提供  2)全日本選手権大会、女流選手権大会、高校選手権大会、第70期名人位戦・68期クイーン位戦、第5回ちはやふる小倉山杯でのインターネット中継  3)全国高校学校選手権大会、名人位・クイーン位決定戦、ちはやふる小倉山杯において**代理店を活用した広報活動（プレスリリース等きめ細やかな情報発信、協賛団体募集等）**  4)国民文化祭、挑戦者決定戦での速報対応  5)名人位・クイーン位挑戦者決定戦での画像のみのコストを抑えた簡易中継（テスト実施） |
| 普及・指導部 | 1)**初心者指導に係るアンケートの整理**  2022年度に実施したアンケート結果(92件回答)を整理した。今後、他会の参考になりそうな事例を全日協ＨＰに掲載等公表をする。  2)大学生への意識調査  卒業後に「かるたを続けたいか、続けるための支障は何か」を調査した。（回答サンプル約400件)  3)公認指導者（仮称）について  公認指導者の条件等について意見交換 |
| 競技かるた部 | 1)**全国大会開催方式の見直しと試行を計画的に実施した**。  2)**「練習会・大会開催ガイドライン」の適宜見直し**を座長を中心に4月、6月、11月と改正を行なった。  3)**世代別大会のルール化と大会開催**を普及指導部と連携して行なった。  4)審判指導員講習会の方法を統一し年度内に随時行う予定。  5)**競技会規程の改定(案)を作成**し、4月からスタ－ト出来るように実施している。  6)新方式による専任読手5名「ありあけ」の収録を実施した。木村専任読手は3月予定。  7)読手指導員制度の運用をスタ－トさせた。主にA級公認読手選考会を中心に研修会から育成実施した。 |
| 審査部 | 1)段位審査（通年）  2)段位審査会の開催（4月、11月）  3)五段以上の功労段申請における支部長推薦および会長の自己推薦時に必要な推薦状様式検討  ＜反省点＞  1)Ｄ級初段化に伴う昇段基準見直しの移行期間終了時に、昇段基準・段位申請書の改訂が未了  2)五段以上の功労段推薦について、支部長までの連絡にとどまり、各会に展開できていない |
| 企画部 | 1)文京区ドリームマッチの運営協力（2023年5月）  2)かるた展望　第77号発行（2023年8月）  かるた展望　第78号発行（2024年2月）  ・新規部員加入による記事、編集作業の多様化  ・編集作業の共有、負担分散化のため、データ収集・編集作業の効率化の検討  ・文学としての百人一首にスポットを当てた記事作成 |
| 調査研究部 | 1)令和5年1月6日（金）開催の百人一首文化講演会講演録を作成し、会員に配布。  2)令和6年1月5日（金）：百人一首文化講演会  講師：永吉寛行（宮崎大学准教授）  演題：「かるたの歴史と大石天狗堂の歩み」（かるた札の制作体験を含む。）  3)令和5年6月11日（日）：小倉百人一首講演会  講師：前田直樹（大石天狗堂代表取締役社長）  演題：「かるたの歴史と大石天狗堂の歩み」  4)調査研究部会　第1回　8月2日（水）　第2回　11月6日（月）  反省）講演会の日程・会場・内容等の検討を十分に行うことができなかった。 |
| 総務部 | 1)代理店活用と渉外活動による行政・企業への認知拡大  (1)**主催大会を契機とした代理店活用により協賛募集活動**  全国高等学校選手権大会、名人位・クイーン位決定戦、ちはやふる小倉山杯の何れも前年比で協賛金額・協賛先を拡大した。  (2)**行政からの支援拡大**  全日本選手権大会は開催地行政（愛知県豊田市）からの新たな支援を得ることができた。  2)**全国高等学校選手権大会の課題解決**  課題であった会場確保・スタッフの負担大・大会収支の赤字体質の改善を進めることができた。  3)事業計画の推進  事業計画の２本柱の一つである広報活動強化は広報部と連携し推進できた。普及活動強化については具体的な成果につなげる連携策の企画・検討ができなかった。 |

**6．総会・理事会等の開催**

**(1)総会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第10回  通常総会 | 2023年  ６月11日 | 林野会館５階503・504号室 | 1,408人  内、会場出席 40人  委任状出席1,368人 | 1)2022年度事業報告 報告の件  2)2022年度計算書類の承認を求める件  3)2023年度事業計画書および収支予算書の承認を求める件  4)理事の選任を求める件  **３）２０１９年度事業** |

**(2）理事会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第17回理事会 | 2023年  4月22日 | 名鉄トヨタホテル | 20名 | 1)2022年度事業報告および決算書類  2)2023年度事業計画書および 収支予算書  3)理事の選任案  4)第10回通常総会招集の件  5)個人情報管理規程の改正  6)功労表彰  7)その他報告 |
| 臨時  理事会 | 2023年  6月11日 | 林野会館５階501号室 | 22名 | 1)役付理事の選定  2)専門部長の選任  3)顧問の選任  4)支部長の任命（報告） |
| 第18回理事会 | 2023年11月18日 | 文京スポーツセンター会議室 | 21名 | 1)公認大会改定（案）  2)2023年度事業計画の進捗と2024年度事業計画骨子（案）  3)2023年度収支予算の進捗（報告）  4)海外普及についての理事提案への回答と今後の展望（報告）  5)全国高等学校選手権大会の見直し（進捗報告）  6)競技人口調査結果について（報告） |

**(3）常務会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第42回常務会 | 2023年  4月16日 | 本部事務所、  オンライン併用 | 6名 | 1)第17回理事会上程資料  　・2022年度事業報告、2023年度事業計画書・収支予算書、理事の選任他  　・個人情報管理規程の改正  　・功労表彰  2)公認大会改定案  3)十段位授与の推挙  4)各案件報告  ・第１回テーブルかるた大会実施要領  ・広報部活動体制について  ・ちはやふる小倉山杯取組み結果  　・協賛募集活動の取組み結果  　他 |
| 第43回常務会 | 2023年  11月12日 | オンライン | 6名 | 1)公認大会改定案について  2)2023年度事業計画の進捗と2024年度事業計画骨子（案）  3)2023年度収支予算の進捗（報告）  4)海外戦略検討部会答申  5)全国高等学校選手権大会の見直し（進捗報告）  6)競技人口調査結果について  7)かるた道場を建てた人の表彰について  8)競技線の商標出願について  9)永世称号者への賞状授与 |

**(4）支部長会議**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第20回  支部長会議 | 2023年  4月22日 | 名鉄トヨタホテル | 13名 | 1)第17回理事会 議事報告  2)全国大会の見直しについて  3)各支部の2022年度実績と2023年度計画  4)専門部からの報告・提案  　　 競技かるた部・普及指導部 |
| 第21回支部長会議 | 2023年11月18日 | 文京スポーツセンター会議室 | 13名 | 1)公認大会改定（案）  2)競技人口調査結果について（報告）  3)第18回理事会上程議題  (1)2023年度事業計画の進捗と2024年度事業計画骨子（案）  (2)2023年度収支予算の進捗（報告）  (3)海外普及についての理事提案への回答と今後の展望（報告）  (4)全国高等学校選手権大会の見直し（進捗報告）  4)各支部からの報告・提案 |

**(5)各会代表者会議**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第10回  各会代表者会議 | 2024年  2月11日 | オンライン | 56名 | 1)公認大会開催方式の改定について  (1)改定案の説明  (2)質問・意見・要望への回答  2)2023年度事業の進捗報告  (1) 2023年度事業計画の進捗  (2) 競技人口調査結果について  (3) 全国高等学校選手権大会の見直し（進捗報告）  (4) 海外普及についての理事提案への回答  (5) 2023年度収支予算の進捗  3)2024年度事業計画について  (1) 2024年度事業計画骨子  (2) 専門部活動計画  4)各都道府県協会・登録会からの質問・意見等への回答 |

以上